

# Computer Report

Vol. 55 No. 2 2月号 (通巻 725号)

## はじめの言葉

■「イスラム国」と称する地域で起こった邦人人質事件。日本政府／国家を挙げての大事件に発展した。日本ばかりか、ヨルダンなど中東周辺国家／地域だけでなく欧米諸国／世界中の国々をも巻き込んでの騒動ぶりは、世界がグローバル化されてきていることを改めて実感させる。アラブの春運動の原動力となったインターネットパワーが、「イスラム国」からの情報発信に大いに利用されているというのも皮肉なものである。

■資本主義経済圏の盟主とされるアメリカでは 1%の富める者が、富の全体の約半分を所有していることが報告された。まさに資本主義思想の本質的矛盾の表面化である。一方、共産主義経済国の代表的存在であり、今や世界第二位の GDP 国となった中国でも、富の分配で大きな矛盾が出ている。あらゆる階級存在を否定し、平等な富の分配を目指すとした共産主義運動の基本原理の崩壊であり、共産主義思想の全否定形の顕在化である。

■世界の二大経済大国における富の不平等分配現象は、二国内に止まらない。まさにグローバル化するなかで全地球を覆う形で進展していると考えらるべきだろう。アメリカおよび中国など一国内での分配格差比率ではなく、全地球レベルで富の分配バランスを考えた場合、果たしてどれほどの不平等状態にあるのだろうか。平和で安定した世界経済環境の創造を目指すならば、是非とも把握する必要があるデータ／情報だろう。

■今、中東で起こっている「イスラム国」建設運動(?)の背景／一因に、この不平等問題があるのではないかという懸念も浮かぶ。経済先進各国は、自国だけの国益優先論から一步離れて考え直す余裕を持っていい時かもしれない。卑劣な「イスラム国」の軍事／テロ行動を是認するつもりはないが、まったく関係なくもないと、そうも思える。ちなみに、軍事テロ活動には世界各国の不満分子が結集しているという。それも、気になる。

■インターネットという情報通信手段に国境はない。人間のエゴで作られた国境を超えているところが、実にスーパーである。また、使い手の選り好みもしない。全地球規模で、全人類みんなに、平等な通信機会を提供している。すべてにおいてボーダーレスである。この平等性は、富の分配の不平等性と、あまりにも対照的である。情報のやり取りで真実を知り、富を産み出す情報社会にあって、人類は今、最大の矛盾に直面している。

■依然として、真実を国民が知ることを覆い隠そうとする勢力、動きもある。それは限りなく、独裁政権の常であり、他国への不正侵略行為をしている国家の証明でもある。しかし真実は知れる。過激な抗議行動として表れる。「アラブの春」運動もそのひとつだった。急激な経済発展を見せ、大きな格差問題を生んでいる隣国中国では、自国内発生を危惧していると言われる。チベット／ウイグル自治区問題を抱えているからだだろう。

■インターネットテクノロジーをベースとした各種のソーシャルネットワークサービス(SNS)で様々なトラブル発生が相次いでいる。機会平等に提供されているはずのインターネットが、実は悪意ある一部の勢力によって妨害されたり、支配されるリスクを有していることを改めて思い知らされる。さらに注意すべきは、コンピュータテクノロジーの基本部分で、実に大きな国家間格差／不平等が生じ存在していることである。(藤見)